



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 大学連携と口腔医学の推進をめざして

歯学部長 宮崎 隆

歯科医療や歯学教育を取り巻く環境が急速に変わりつつありますが、歯科界が今後も社会の要請に応じて国民の健康に貢献していくためには、昭和大学が大学全体として推進しているチーム医療が益々重要になります。



本歯学部では今年度2年次カリキュラムの改訂に伴い、従来のヒューマンバイオロジーコースとオーラルバイオロジーコースを統合し、新たに「オーラルフィジッショニヤン(口腔医学)コース」を大きな柱として設置しました。学生は基礎歯科医学を学ぶ際にも、全身を対象とする医学と連携する口腔医学を常に意識して学習します。今後は口腔医学の観点から、幅広い医療職と連携しチーム医療ができる歯科医師の教育と、特に高齢者医療のなかでの口腔疾患の予防、治療および口腔ケアを一層推進していきます。

本学では医学部が先行して、東京慈恵会医科大学、東邦大学医学部、東京医科大学と連携し、6年次の選択制臨床実習の学生相互受け入れや医学教育全般で高い成果をあげてきました。そこで本歯学部でも平成15年度からの新カリキュラムの導入に伴い、チーム医療を推進している北海道医療大学歯学部、岩手医科大学歯学部、福岡歯科大学と連携し、4大学間で6年次学生の選択実習の学生相互受け入れを開始しました。平成19年9月には、この実績をもとに、「広域大学間交流を基礎とした口腔医学の構築コンソーシアム」の協定書を4大学で締結し、臨床実習生の相互受入以外にも、幅広い教育研究活動で連携を進める方針を打ち出しました。

平成20年度に文科省から新しい事業として、「戦略的大学連携支援事業」の公募がありましたので、福岡歯科大学を幹事校として、4大学に福岡大学、九州歯科大学、神奈川歯科大学、鶴見大学が加わり、「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」というプログラムで応募したところ、厳しい選考を経てめでたく選定されました。今後、新しい口腔医学のカリキュラムの整備を始め、歯学教育の改革をさらに進めていきます。

本学に今年の4月に設置した昭和大学口腔ケアセンターは他大学からも強い関心を持たれており、医系総合大学の充実した教育環境を有する本歯学部における新しい教育が今後の歯科医療の起爆剤になるものと確信しています。

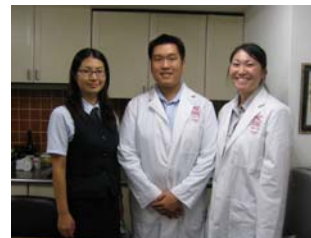
## 昭和大学での選択実習に参加して

USC 学生 Benjamin Lu, Sena Hiradate

In the last two weeks of August, we had the opportunity to visit and observe Showa University School of Dentistry.



As the only two first-year student representatives from the University of Southern California in Los Angeles, we were overwhelmed by everyone's kindness and hospitality. Aside from sweltering heat, we felt right at home. During the first week of our stay, we were introduced to some of the current research being conducted at the university. The information given to us was very interesting and opened our eyes to the ground-breaking efforts being made at Showa. In the second week, we had the opportunity to observe several clinical departments, which included pediatrics, orthodontics, radiology, prosthodontics and periodontics. Every instructor we interacted with demonstrated their vast reserve of knowledge and showed willingness to communicate that knowledge to us. The cultural exchange program proved to be extremely beneficial for the both of us; it enabled us to apply the learning gained from our PBL cases to a clinical setting. We were also particularly impressed with the collaborative efforts of specialists supported by the school's resources to offer extensive treatment to cleft palate and lip patients. It was obvious through the maintenance and routine oral care offered at the dental hospital after the operative procedure, that these types of patients were in very good hands. The radiology department was also interesting to us; we encountered equipment that we had studied, but never had seen. In fact,



the facility was prepared to diagnose pathology beyond the teeth, which we felt enabled for a more comprehensive analysis, thereby contributing to better a patient's systemic health. Overall, we were extremely grateful for this opportunity and to the Showa University professors, researchers, and students for a memorable and enriching experience.

## D6 選択実習に参加して(USC)

D6 森田 麻友



今回選択実習として、5月7日から3週間、アメリカ・ロサンゼルスにある南カリフォルニア大学(USC)に留

学させていただきました。私は3年次にオーストラリアにあるアデレード大学に行かせていただいたので、2回目の海外への留学となりました。日本とアメリカ、オーストラリアでは大きくカリキュラムが違います。USC やアデレード大学で学ぶ学生は学生のうちから臨床の場へ出て治療を始めるためか、モチベーションが高く、学ぼうという姿勢に積極性を感じました。ほとんどの授業で、PBLによるグループディスカッションの形がとられていて、お互い知識の共有をしながら学んでいるというのも1つの要因となっているかもしれません。しかし、どちらのカリキュラムがより良いかではなく、その国にあった教育、歯科治療がなされているのだと思います。USCでは私が想像をしていた以上にさまざまな経験をさせていただきました。PBLへの参加や臨床の場での学生のアシストをさせていただきました。また、ボランティアで行われている地域医療の施設にもいくつか見学に行かせていただくことができました。また留学中、アメリカで開業されている先生や、USCで研究をされている日本人の先生方にお話を聞くこともできました。もともと海外で学ぶことに興味を持っていた私にとって、そうした生の声を聞くことができたことはとても貴重な経験となりました。こうした体験や、違う環境で同じ歯科医師を目指す学生と価値観を共有できたことは、これからの私にとって大きな自信となっていくと思います。今回、このような素晴らしい機会を作って下さった多くの先生方に心から感謝致します。ありがとうございました。

## 欧州の歯科放射線学会に参加して

歯科放射線学教室 岡野 友宏

欧州委員会(EC)は様々な領域で、各国の裁量権を一定程度認めながらも、欧州共同体としての規範を提示しています。歯学教育にしても然り、医療においても然りです。画像診断のガイドラインも提示しており、歯科X線については2004年に発行しています。すでに数年を経過し、現在の技術進歩に適合していないことを理由にこれから1年余りかけて改訂する予定です。今回、私が参加した第11回欧州歯顎顔面

放射線学会議(ブダペスト)ではその改訂の方向性を決めるためにRound Table Discussionが企画されました。私の役割はわが国歯科放射線学会が策定中のインプラントの画像診断ガイドラインの解説と歯科用コーンビームCTの日本の現状説明でした。インプラントに関してはEAOのガイドラインがありますが、主旨に大きな変化はないものの現状に適合していません。ガイドラインは科学的な根拠に基づいて作成されますが、現実の運用は各国の医療制度に依存しています。今回の場合は欧州ですが、「自由度」の大きい米国からの委員との間で大きな意見の相違が見られました。放射線の医学利用については従来から被ばく



(写真)ブダペスト市内の歯科X線専門医院

の機会や線量を「合理的に達成できる程度で低く保つこと」を原則にしており、それに沿ったガイドラインになります。

## 医学教育者ワークショップに参加して

歯科補綴学教室 馬場 一美

7月14日から16日にかけて、富士吉田で行われた医学教育者ワークショップに参加して参りました。私事です



が教育者ワークショップへの参加は10年ぶり2回目になります。私が参加したのはビギナーズ・コースで、カリキュラム立案の手順を学び、実際に昭和大学一年次のユニット“コミュニケーション入門”のカリキュラム立案作業を行いました。私たちのグループは医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部の混成チームで和やかで建設的な雰囲気の中で伴に学び作業を進めることができました。

カリキュラム立案についてのレクチャーは、以前、同様のワークショップを受けた経験が嘘のように、新鮮で学ぶことが多く非常に有意義でした。運転免許ではありませんが、教育手法についても定期的に知識の点検・整理を行う必要があることを痛感しました。

実際のカリキュラム立案作業をとおして他学部のすばらしい先生方と知り合いになったことは大きな収穫でした。また、歯科とは異なる視点からの意見を拝聴することができ、医系総合大学である昭和大学の利点を実感することができました。

最後に、終始懇切丁寧にご指導頂いたタスクフォースの皆様、この場をかりて感謝申し上げます。

## 第27回歯科医学教育学会に参加して

歯科医学教育推進室 片岡 竜太

第27回日本歯科医学教育学会が日本大学松戸歯学部の主催で江戸川区総合文化センターにて、7月11-12日に開催されました。

「これからの医療コミュニケーション教育の目標設定とカリキュラムストラクチャー」に関するシンポジウムが広島大学の小川哲次先生と岡山大学の吉田登志子先生を座長に企画され、ダンディ大学の例を中心に欧米と対比しながら、わが国の医療コミュニケーション教育について白熱した議論が展開されました。本学のコミュニケーション教育を考える上で、大変参考になる内容でした。



本学からは口演6題、ポスター10題の計16題の演題が出されました。内容 PBL, 臨床実習, 臨床研修, OSCE など本学の特色のある教育、研修内容を紹介するものでした。今回から学生発表のセッションが設けられ、本学からは南カリフォルニア大で選択実習を行った6年生(澤田紘美・鈴木芳恵・森田麻友)の3名が発表しました。自分たちの希望に沿ってPBLテュートリアルと大学病院および地域医療施設の見学カリキュラムを組んでもらい、現地の教員、臨床歯科医とのふれあいの中で、日本の歯科医療をより広い視点から見直したその実習が充実していたことが伝わる内容で、会場から多くの質問がありました。

教育を歯学部全体で考え、学部全体の取り組みとするために、教授をはじめとした多くの教員が本学会へ参加すること、本学における教育への取り組みを全教員が共有することが必要であると痛感しました。

## 第86回 IADR に参加して

歯科理工学教室 柴田 陽

7月2日から4日間にわたり、カナダ・トロントの Metro Tronto Convention Centre で行われた第86回 IADR 総会に参加いたしました。今回の会場はオンタリオ湖畔に近く、トロントのシンボルである CN タワーに隣接した絶好のロケーションであり、世界各国から多くの参加者が集まりました。IADR はご存知の通り世界最大規模の歯科学会で、各研究分野における

最新の研究成果を知ることができます。口頭発表も多くの会場が用意されて活発な議論が行われていましたが、ポスター会場の広さは相変わらず圧巻であり、



迷子になるほどです。主観ですが、今年は南米からの発表が以前よりもずいぶん増えていたようでした。

私は2005年以降、IADRに参加する機会がなく、久しぶりに自分の専門分野であるインプラント研究の世界レベルを目の当たりにしました。国内の学会も大事ですが、世界中から集まった一流の研究の中で、自分の研究内容がどのような位置づけになるのかを感じることは、重要なバランス感覚です。特に若い先生方は積極的にこのような場を体感していただくと良いと思いますし、周りの方も是非サポートしてあげてください。

## 平成20年度科学研究費(若手研究スタートアップ)の採択状況

歯学部研究活動委員会 委員長 上條 竜太郎

8月20日、日本学術振興会は平成20年度科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ))の交付内定(新規課題分)を公表しました。本研究費は若手研究者が自立して活躍できる機会を確保し、若手研究者の活動を活性化するため、大学等の研究者の職に就いたばかりの者に対し、研究活動のスタートアップのため、研究費の支援を行うことを目的とする研究種目です。

歯学部は4件(大学全体で5件)が内定を受けました。内定を受けた研究者は片岡嗣雄(口腔微生物学)、伊東令華(歯科補綴学)、榎本明子(歯科矯正学)、宮園あがさ(歯周病学)の4名です(敬称略)。今後の研究成果に期待致します。

## 診療統計(平成20年8月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,300	665.4	713.6	671.3
入院患者	521	16.8	11.7	13.5

## Gyu-Tae Kim 先生が招聘研究者として いらっしやいました

歯科放射線学教室 岡野 友宏

昭和大学は現在、世界の3つの大学と姉妹校関係にあります。その1つ、韓国ソウルにある私立大学、KyungHee(慶熙)大学とは2000年に学長らが訪ね、提携のための調印をしました。今回、当時の歯学部長であった Sang-Rae Lee 名誉教授の推薦で Gyu-Tae Kim 先生(臨床講師)が招聘研究者として来日しました。専門は歯科放射線学であり、私のもとで共同研究をすることになりました。期間は少なくとも6ヶ月を予定していますが、延長することも考えられます。



(写真:Kim 先生を囲んで。右から宮崎歯学部長、細山田学長、Kim先生、岡野歯科病院長)

その間、できるだけ多くのことを経験してもらおう予定です。皆様にはご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 教室紹介 歯科理工学教室

歯科理工学教室 宮崎 隆

「器材は歯学を貫く」というキャッチフレーズがあります。歯科医療の歴史を紐解くと、新しい歯科材料と技術が導入されて治療法が改良改善され、高度化してきました。本学の歯科理工学教室は、教授以下研究補助員に至るまで、教員全員が歯科医師であるという全国の歯科理工学関連講座の中でも希有の構成であり、初代の宮治教授時代から、臨床を意識した教育と研究を行ってきました。歴代の大学院生や教室員の奮闘により、多くの研究成果が臨床の現場に還元されています。

過去100年の歯科医療の歴史で、インプラントの応用は最も革新的でした。本教室においては、



インプラントの工学的な製作方法と生体適合性の両面から研究を続け、世界に先駆けてワイヤ放電加工処理チタンインプラントを開発しました。10数年前か

ら臨床応用され多くの患者の健康に貢献しています。さらに高機能のインプラント開発や骨再生治療を目指して、柴田助教を中心に世界と競争をしています。

一方、歯科医療を変革しつつあるのはコンピュータやITを活用した補綴装置の作製です。この領域でも本教室は世界をリードし、堀田講師を中心に研究開発した歯科用CAD/CAM装置が商品化され、新しいオールセラミックス修復が本学歯科病院の美容歯科を始め、日本全国で活用されています。

その他、玉置准教授を中心に研究開発したチタン casting や李助教のレーザ溶接は、補綴臨床の金属床義歯で普及しています。藤島講師の修復用ならびに補綴用コンポジットレジンやガラスアイオノマーセメントの研究も現在の保存修復や審美歯科領域で活用されています。

このように今後とも教室の総力をあげて、歯科医療の高度化に材料と技術の観点から貢献していきたいと考えています。

## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 10月10日(金)-12日(日):旗が岡祭・いぶき祭
- 10月18日(土):富士吉田父兄会
- 10月21日(火):解剖慰霊祭
- 10月28日(火):歯科病院 臨床研修歯科医  
マッチング発表
- 11月8日(土):歯科病院公開講座
- 11月9日(日):推薦入試
- 11月14日(金)-16日(日):日本歯科医学会
- 11月15日(土):昭和大学創立80周年記念式典・  
祝賀会
- 11月29日(土):父兄会
- 12月6日(土):第28回昭和歯学会例会  
大学院歯学研究科選抜試験

## 編集後記

歯周病学教室 小林 誠

刻々と変わる社会的・経済的な状況の変化から、患者が望む歯科医療のあり方も2極化してきている感があります。これは、社会保険ベースでの歯科医療の限界から生まれてきている現象だと思われませんが、実際、私費でのハイエンドな治療を望む患者が増えてきていることも事実です。このような患者のデマンドに対応し得る歯科医を育成するためのポストグラジュエートコースの必要性を感じる今日この頃です。